

「新しい東北」官民連携推進協議会

令和3年度
福島県意見交換会(第1回)

事務局提出資料

「新しい東北」官民連携推進協議会事務局
2021年10月7日

● 目次

1. 今年度のテーマ設定と参画いただく関与者
2. 本日の論点
3. 関与者の概要と取組紹介
4. あすびと福島さんと協議会・意見交換会の連携の方向性
5. あすびと福島さんとのこれまでの議論
6. 支援組織が担うべき機能について
7. プレイヤー間の関係性
8. 関与者およびコアメンバーとの連携による取組イメージ
9. 取材に関しての考え方（案）
10. 福島県・「実践の場」イメージ
11. 今後のスケジュール

● 1. 今年度のテーマ設定と参画いただく関与者

今年度テーマは「学生主体のコミュニティを組成し、学生目線での発信を行う」と設定し、あすびと福島さんを起点にコアメンバーとなる学生の参画を進め、活動基盤の組成、取材・発信用の記事の作成、学生間での発信の実現を目指します。

テーマ	<p>＜複数年で取り組むテーマ＞ 学生の地元就職が進む枠組み作り ＜今年度＞ 学生主体のコミュニティを組成し、学生目線での発信を行う</p>
取組に関する 主な意見 (第0.5回意見交換 会)	<ul style="list-style-type: none">・ 高すぎない目標設定で、ものづくりや技術体験などを出口に設定・ 取組の効果を計測できる指標（中長期で地元就職率、短期でSNS閲覧数等）の設定とモニタリング・ インターン等の既存取組での不足に着目した目標設定・ 県内外の学生や企業側のニーズの目線での情報収集・発信
取組に参画いただく コアメンバーおよび 関与者	<ul style="list-style-type: none">・ 関与者：一般社団法人 あすびと福島 半谷栄寿さん (コアメンバーとなる学生は今後声掛け予定)
今年度末の 到達目標	<ul style="list-style-type: none">・ 活動基盤の組成、取材・発信用の記事の作成、学生間での発信の実現

● (参考) 過年度までの検討経緯及び課題を踏まえた今年度のテーマ設定案

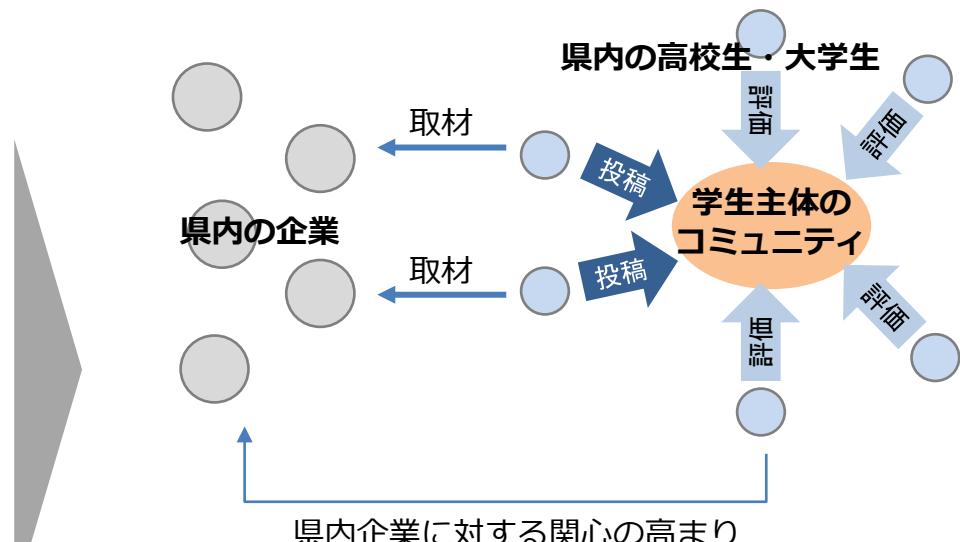
過年度において、若者の地域への関与に向けた取組において、地元就職のために県内で働く方に関する情報発信の活動を実施しました。しかしながら、「大人目線」での取組であり、学生主体の活動として定着することはありませんでした。今年度は、学生による学生のための取組として、県内企業を紹介する試みを検討しています。

過年度意見交換会で議論された要素（抜粋）

就学・就職のタイミングで地元を離れてしまう	<ul style="list-style-type: none"> 地域活性化における若者の関心を高めることの重要性が度々議論になった 地元就職の選択肢が認識されずに、就学・就職時に地元を離れる高校生・大学生が多い
若者が地元企業を知る機会がない	<ul style="list-style-type: none"> 地域で活動している魅力的なプレイヤーは多数存在するが、若者の視野には入りにくい 就職先としての大手企業くらいしか知る機会がないのが現状
「大人臭」のするイベントには若者が集まらない	<ul style="list-style-type: none"> 就職説明会など、イベントは多数あるが、いずれも大人目線で、直接的な就業を目的としたものが中心 若者が自分たちのために企画する活動でないと継続性が出ない

2019年に実施した「キャリア探求ゼミ」では、若者に地域で活躍する社会人を知つてもらう機会が作れたが、大人主導であり単発で終わってしまった

取組実現のイメージ



- コアになる学生を中心にコミュニティを組成
- 県内で活動する企業や起業家を学生が取材
- 学生目線で企業の紹介記事を作成し、コミュニティに投稿
- コミュニティに参加する学生が投稿記事をコンテスト形式で評価
- 学生が学生向けに企業を紹介しあうことにより、県内企業に対する注目度が向上
- コミュニティによる活動が自発的に継続される

● (参考) 岩手・宮城のテーマ設定

	岩手	宮城
テーマ	<p><複数年で取り組むテーマ> 関係人口の維持・拡大+地域産業の活性化 <今年度> 関係人口を活用した集中的な地域の魅力の磨き上げ、PR、モデルづくり</p>	<p><複数年で取り組むテーマ> 「観光振興」「伝承と地域の魅力の発信」 <今年度> 地域の魅力の磨き上げ</p>
取組に関する主な意見	<ul style="list-style-type: none">・個社が個別に取り組んでいたものを地域の魅力としてまとめ、一体となって発信するような取組・関係人口拡大のための地域産業の強化・他県の事例共有に基づく課題解決検討・専門家による地域の魅力の磨き上げ、地域商社機能の活用・関係人口による周知拡大・販促	<ul style="list-style-type: none">・個社が個別に取り組んでいたものを地域の魅力としてまとめる・地域の魅力の発掘・磨き上げと、伝承を組み合わせたオンラインも含めたツアー醸成や情報発信・伝統技術の体験等も交えた見せ方検討・地域の魅力を支える人材育成・アプリを用いた情報発信
課題に挑戦している企業	<ul style="list-style-type: none">・有限会社宝来館 岩崎昭子氏・陸前高田企画株式会社 村上清氏	<ul style="list-style-type: none">・石巻圏観光推進機構 齊藤雄一郎氏
今年度末の到達目標	<ul style="list-style-type: none">・専門家・関係人口を活用した商品開発・ツアー醸成・PRの実現・上記達成の成功要因や必要な支援・制度等をノウハウとして整理、対外的な発信	<ul style="list-style-type: none">・ターゲット設定・商品開発・ツアー醸成・PR実現
		<ul style="list-style-type: none">・上記達成の成功要因や必要な支援等をノウハウとして整理、対外的な発信

● 2. 本日の論点

複数年度および今年度のテーマを踏まえた今年度の目標達成に向け、効率的・効果的に取組を進めるため、取組内容の具体化を中心に議論させていただきます。

論点 1

あすびと福島およびコアメンバーの学生と連携し、年度末の達成目標に向け、どのような取組を実施するか

論点 2

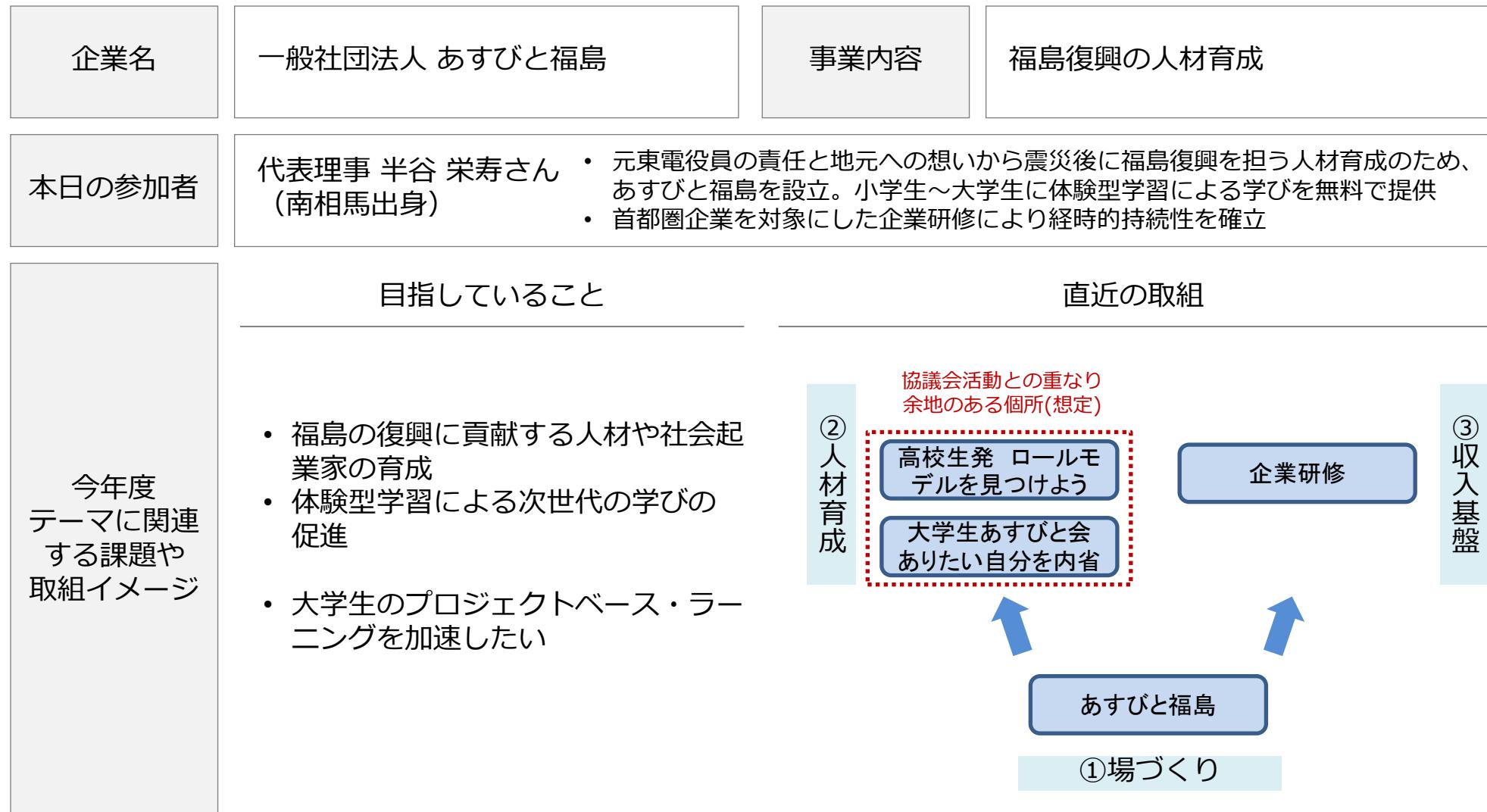
ノウハウの普及展開と本年度の取組成果の観点から実践の場はどのような企画にすべきか

論点 3

論点 1、2 を踏まえ、第2回までに関与者およびコアメンバーとなる学生と共に、何を検討・実践・検証すべきか

● 3. 関与者の概要と取組紹介

あすびと福島の半谷さんは、福島の復興を担う人材育成に尽力されています。中でも、具体的なプロジェクトによる体験型学習を重視し、学生に多くの成長機会を提供しています。



● (参考) あすびと福島の活動例

高校生発「ロールモデルを見つけよう」という活動では、高校生が地域のために尽力しているビジネスパーソンのもとを訪問し、取材を行って記事作成を実施しています。地元就職の促進という趣旨ではないが、高校生の目線で「仕事」とは何か、「地域のために働く」とはどういうことか、を考えながら学びを深めています。



今回インタビューをさせていただいたのは、愛知県に本社を置く株式会社テラ・ラボ代表取締役の松浦孝英さんです。南相馬市原町区にある福島ロボットテストフィールド内(以下ロボテス)で無人小型航空機の研究開発を進めています



「無人小型航空機のきっかけは少年の心」
ラジコン大好き少年だった松浦さんの出身の愛知県は、当時から航空宇宙産業特区でした。
知人から航空宇宙産業の話をされても、そのころの松浦さんは関わるようになるとは思ってもいなかつたそうです。

偶然、種子島にJAXAのロケット打ち上げを見に行く機会があり、そこで思ったことは、「ロケット以外で宇宙に行けるものないのかな。。。」

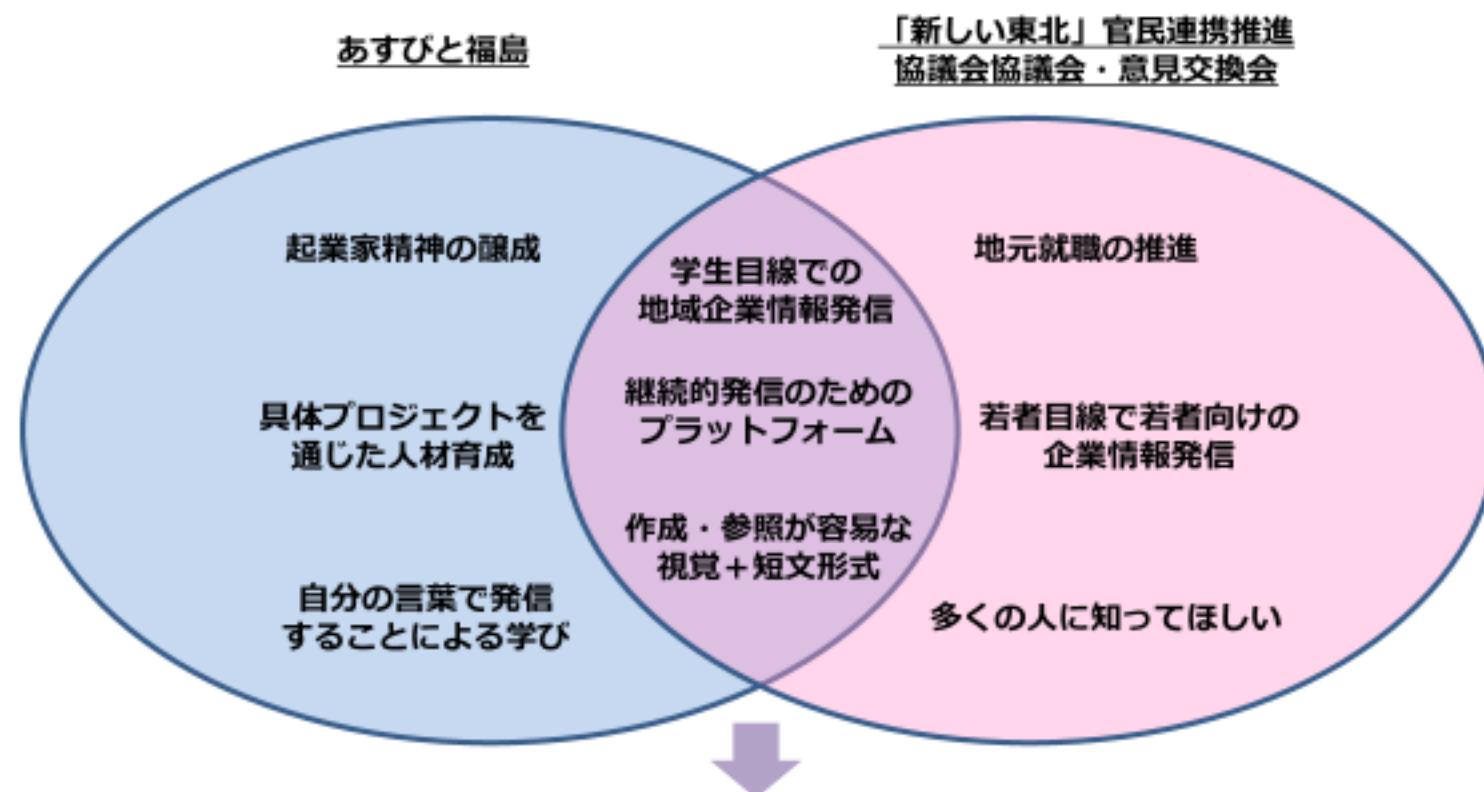
好奇心に火が付きます。無人機を宇宙へ飛ばしてみたい、ふとした思い付きがスタートとなり、松浦さんは宇宙への挑戦を志しました。



【インタビューを終えて 編集長 沖沢優希子の感想】
松浦さんは、私たち高校生に対しても真剣に向き合ってくれる人でした。
テラ・ラボの無人小型航空機が、昨年の台風19号の被害の時、ロボテスから出動し地元の被災状況の調査に役立ったことも伺い、自分たちの近くで既に活躍していることがとても嬉しく感じました。
今回のインタビューを通し、松浦さんが拠点としているロボテスを近くに感じました。
次はオンラインではなく、松浦さんに会いにロボテスに伺いたい、そう強く感じた楽しい時間でした。

● 4. あすびと福島と協議会・意見交換会の連携の方向性

人材育成に力点を置くあすびと福島の地域企業取材活動と、地元就職促進を目指す当協議会・意見交換会の活動、両者の重なりうる部分において新たな要素を入れられるのではないかと考えます。



学生目線での地元企業取材をして学生間で広く相互発信ができる枠組みを組成。取材による学びと隠れた地元魅力の発見・共有を促し、地元就職の増加につなげていく

● 5. あすびと福島とのこれまでの議論

学生目線での企業取材活動に関してあすびと福島と複数回の議論をしてきました。結論としては、最初から学生の主体的な動きを期待することは非常に難しく、少なくとも初期段階は大人が支える体制が必要であると認識しています。

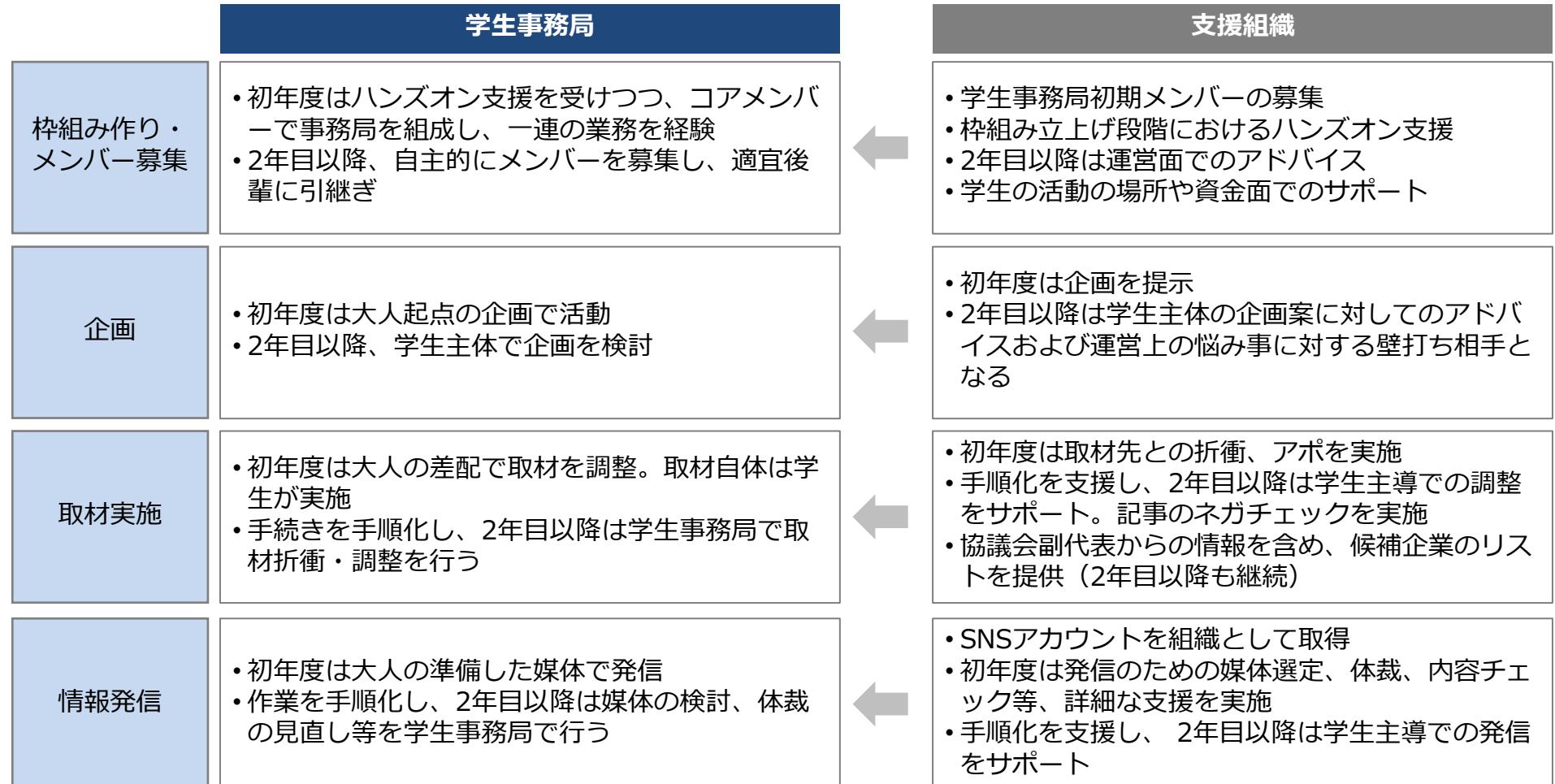
あすびと福島		協議会
重視するポイント	あすびと福島	協議会
	<ul style="list-style-type: none">・学生の学びにつながること・学生に過度な負担をさせないこと・学生の自主性を重んじること	<ul style="list-style-type: none">・地元就職につながる情報を広く発信すること・学生目線での取材・発信を行うこと・取組が今後も継続すること

トピック	協議会・当初想定	これまでの議論
学生主体の事務局	<ul style="list-style-type: none">・コアメンバーとなる学生が周囲を巻き込んで活動をリードできるのではないか	<ul style="list-style-type: none">・学生が最初から主体的に動くのは無理がある・一方で、大人のサポートを得ながら事務局にチャレンジすることによる学びは大きく、大学生がやる価値はありそう
学生目線での発信	<ul style="list-style-type: none">・若者の目線で地元企業を紹介することは、キャリアを考える学生の視野を広げる効果がある・大人主導の活動ではないことに一定の価値がある	<ul style="list-style-type: none">・「高校生が伝えるふくしま食べる通信」「高校生発ロールモデルを見つけよう」の取組がすでに存在。その中で、学生が取材することによる学びは非常に大きい
学生主導での継続	<ul style="list-style-type: none">・コアメンバーが周囲を巻き込むことで、自身は卒業して退いても継続的な活動につなげられる	<ul style="list-style-type: none">・最初から継続を求めたら学生に敬遠される・裏方の事務局のような継続的存在があってこそ、学生は安心して活動に参画できる

学生の主体性を引き出すためにも、大人による裏方の「継続的に支える組織」が存在することが必要。その組織はどのような機能を持つべきか

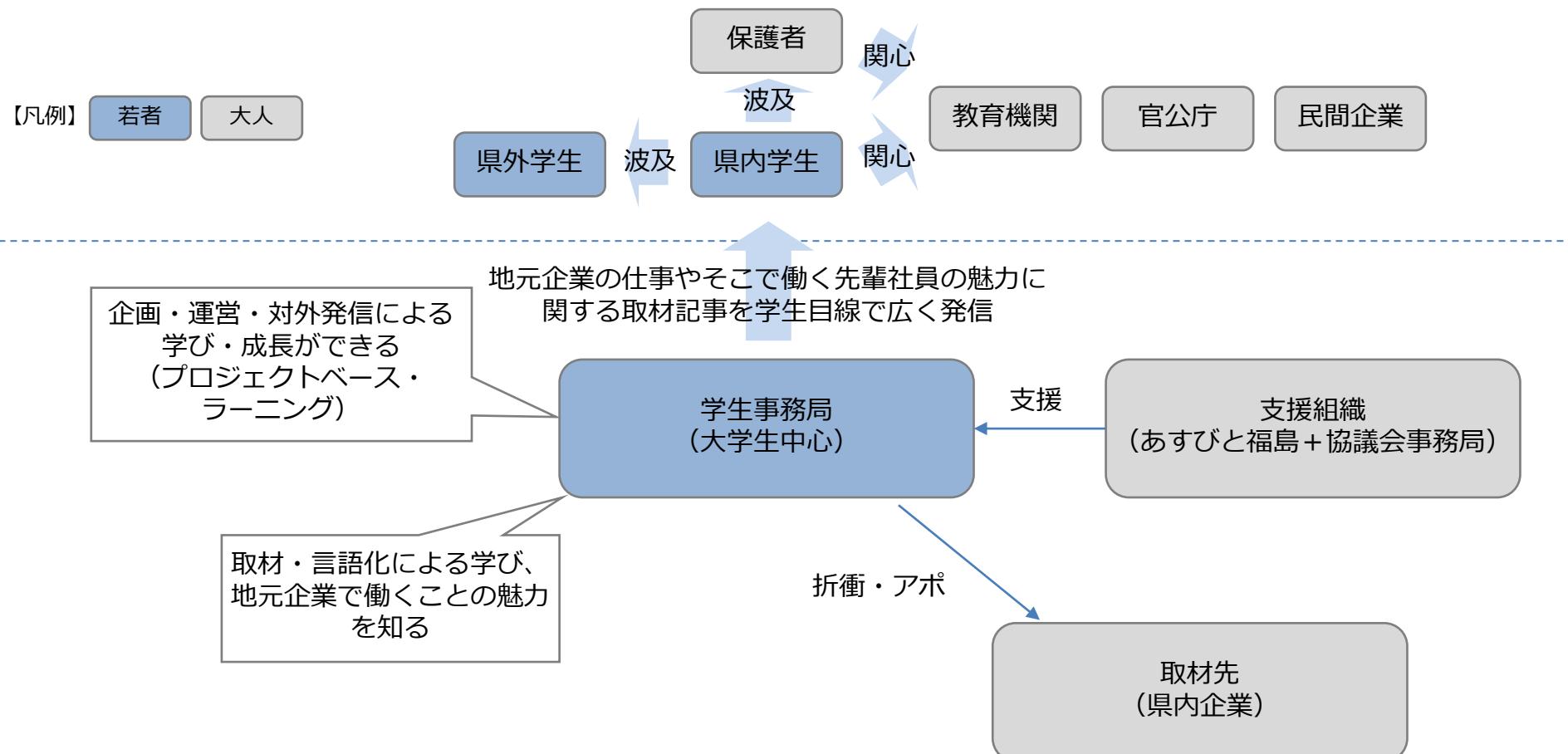
● 6. 支援組織が担うべき機能について

支援組織はサポートに徹し、学生事務局が段階的に機能するようになるための下支えの役割が望ましいと考えます。



● 7. プレイヤー間の関係性

学生事務局を中心に、学生主体の活動として、学生目線で地元企業の仕事の魅力やそこで活躍する先輩社員の姿を広く発信することにより、関与した学生や情報を受け取った学生の地元就職の増加につながることを期待します。



● 8. 関与者およびコアメンバーとの連携による取組イメージ

本年度取組の推進のため、学生事務局を早期に立ち上げ、副代表団体・事務局による支援を実施する想定です。

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	▲第1回意見交換会	▲第2回意見交換会		▲実践の場		▲第3回意見交換会
枠組み作り・メンバー募集	・初期メンバー募集	・学生事務局立上げ ・SNS立上げ		・新メンバー募集		・新体制移行
企画	・企業選定方針検討 ・今年度企画詳細化			・実践の場の準備	・次年度企画検討 ・企業選定方針見直し	
取材実施	・取材先候補検討	・取材先調整 ・取材実施 ・FB実施	・取材先調整 ・取材実施 ・FB実施		・取材活動の振り返り	
情報発信		・SNS発信		・SNS発信		・発信活動の振り返り

● 9. 取材に関しての考え方（案）

意見交換会にて、取材に関しての大まかな方針を本日すりあわせさせていただき、取材方法の詳細検討はあすびと福島と事務局にて進めさせていただきたい。

取材目的 (Why)	<ul style="list-style-type: none">・学生の県内就職が促進されるよう、学生が学生目線での企業取材を行い、地元企業で働くことの魅力を自身の言葉で情報発信する・発信された内容を学生が見ることで、県内企業に対する関心が高まることを期待
対象先の選定基準 (Who)	<p>【リサーチ段階で確認】</p> <ul style="list-style-type: none">・経営者や従業員、事業内容、商品・サービス等に魅力がありながら、一般的に知名度が高くない企業・学生の就職先として選択肢に入りうる企業（採用予定がある、公序良俗に反した事業内容ではない、等） <p>【取材打診時に確認】</p> <ul style="list-style-type: none">・福島の復興、地域活性化に関心があり、本取材の趣旨に賛同いただける企業
取材事項 (What)	<ul style="list-style-type: none">・取材先企業が推薦する若手社員へのインタビューを通じて、企業としてのチャレンジ、仕事に対する思い、仕事の魅力などをヒアリング（社員個人の魅力を取材することで企業としての魅力につながる部分もあり）・その他、学生が事前リサーチで関心を持った事項
取材先件数 (How Many)	<ul style="list-style-type: none">・今年度は3件以上の実施を目安とする。（最大で5件を目指す）・副代表・オブザーバーには、対象先のリストアップにご協力いただきたい
取材時期 (When)	<ul style="list-style-type: none">・学生の試験時期を考慮し、10月後半～12月中をめどに取材を実施
取材方法 (How)	<ul style="list-style-type: none">・企業の若手従業員に学生がインタビューする方法を想定・取材方法の詳細は、あすびと福島と事務局にて検討させていただきたい

● 10. 福島県・「実践の場」イメージ

実践の場のあり方は、柔軟にいくつかのバリエーションを検討しています。

	方向性 1	方向性 2	方向性 3
目的	県内外の学生向けの 県内の仕事紹介・ 学生の県内就職推進	県内外の学生の活動参画に向けた アプローチ検討・ 今後の活動継続に向けた施策検討 新たな関与者の探索	意見交換会メンバーから記事への フィードバック、 企業選定基準や今後の運営方法に についてのディスカッション
ターゲット	県内外の学生	県内外の学生 (活動予備軍)	学生事務局
形式	記事紹介・トーキイベント	記事紹介・ワークショップ	ワークショップ
内容	<ul style="list-style-type: none">取材記事の紹介に加え、取材担当した学生から企画の狙いや記事のポイントを発表紹介記事の魅力度（仕事の魅力、就職したい、社会貢献、記事内容のおもしろさ等で事前投票してもらったものの結果）を事務局から発表 ※それぞれの観点の一位を発表	<ul style="list-style-type: none">前半は取材記事を紹介。後半で実践の場までに取り組んだ取組を総括し、今後の活動に向けて学生目線でどんなことが必要かを検討・発表する <p>⇒これにより、今後の活動内容を検討すると共に、次代の担い手の学生を募集する</p>	<ul style="list-style-type: none">前半は取材記事を紹介し、その内容に対して意見交換会メンバーからのフィードバックを実施後半で、今年度の振り返り、今後に向けた企業選定基準の見直し、取材や記事作成における改善点について学生事務局中心に議論を行う次年度計画に関して、学生事務局より素案を発表する
参加者	学生	学生 (+有識者)	学生、意見交換会メンバー
	県内就職の促進を重視	活動への巻き込みを重視	次年度に向けた活動内容の ブラッシュアップ

● 11. 今後のスケジュール

本日の議論を踏まえ、第2回意見交換会までの取組を整理します。

